

# 湯沢・雄勝のおもな文化財

## 岩井堂洞窟

国史跡

湯沢市(旧雄勝町)

雄物川上流にある県内で数少ない洞窟遺跡です。4つの洞窟があり、最も保存のよい第4洞窟は、一番上の層から平安、弥生、縄文時代晩期・後期・前期・早期の土器が時代ごとに層位的に発見されています。

## 旧院内銀山跡

県史跡

湯沢市(旧雄勝町)

江戸時代初期に発見され、秋田藩により開発が行われました。たくさんの銀が採れ、最盛期には久保田城下をしのぐほどのぎわいをみせたそうです。はやぶさ坑、五番坑、金山神社が県の史跡に指定されています。

## 磨製石斧

国重要文化財

東成瀬村



4本の長大な磨製石斧です。最も長いものは長さ60.2cm、幅10cm、重さが4.4kgで日本一の大きさです。石斧は両側を擦り切って形をつくり整形したものです。縄文時代前期の祭祀の道具で、まとめて埋納されたものと考えられています。

## 鈴木家住宅

国重要文化財

羽後町



鈴木家は、源義経の郎党鈴木三郎重家の末裔と伝えられ、江戸時代には代々肝煎を務めた豪農でした。住宅は、主屋の前面に突出部を付け後ろに土蔵を接続した中門造で、17世紀の建造と推定されています。

## 三輪神社本殿、須賀神社本殿

国重要文化財

羽後町

三輪神社本殿は、三間社流れ造り、向拝一間、銅板葺(旧柿葺)で、その形式や技法から室町時代後期の建立と考えられています。

須賀神社本殿は、建築部材の墨書から正保4(1647)年に建立されたことがわかり、桃山様式を色濃く伝えています。

## 旧雄勝郡会議事堂

県有形文化財

湯沢市



県が雄勝郡役所の議事堂として明治24(1891)年に建築したもので、県内に残る唯一の明治期行政関係の建物です。木造寄棟造総2階建ての洋風建築で、ドイツ人技師の設計をもとに、棟梁阿部孫四郎の手によって建てられました。

## 佐竹南家日記

県有形文化財

湯沢市



佐竹南家日記は、天和2から慶応4(1682～1868)年まで187年間の271冊におよぶ記録です。領内の産業・宗教・交通・風俗・年中行事などが記録されており、藩政期の政治、経済、文化を知る上で貴重な資料です。

## 鯛状珪石および噴泉塔

国天然記念物

湯沢市(旧雄勝町)



形がハタハタの卵に似ているのでプリコ石と呼ばれています。直径1.5～4mmほどの魚卵のような粒状の固まりで、色はほとんどが白灰色です。温泉成分の二酸化珪素が卵状に結晶したものです。

## 木地山のコケ沼湿原植物群落

県天然記念物

湯沢市(旧皆瀬村)



コケ沼は、木地山の標高約580mの地点にある高層湿原です。面積7.8haほどの水面の多くは、ミスコケ泥炭におおわれていて、湿原全体が浮島状になっています。

## 猿倉人形芝居

県無形民俗文化財

羽後町



鈴木榮太郎一座が伝承している人形芝居です。文楽人形をもとにした指ハサミ人形の形式で、「鬼神のお松」の早変わりの操作に特徴がみられます。

## 仙道番楽

県無形民俗文化財

羽後町



江戸時代初め、京都から来た修験者が山伏神楽を教えたのが始まりとされます。地区神社の祭礼、お盆・家の新築などに演じられます。鶏舞・五条が橋・獅子舞などの演目があります。

## 磨崖

県史跡

湯沢市(旧雄勝町)

磨崖は、岩壁の表面に仏像や文字を彫ったもので、死者を供養したりするためのものです。阿弥陀尊の種子(梵字)が刻まれていて、元亨2(1322)年の銘文から県内最古のものであります。